

野馬土の新聞

(Web版)

2021年3月号

特定非営利活動法人
野馬土

相馬市石上字南白髭320
TEL.26-8437
FAX.26-8203

『のまどお茶っこ会』開催しました！

毎年恒例の『のまどお茶っこ会』を二月十二・十三日の二日間にわたり開催しました。今回は一公演あたりの定員をぐっと減らし、入場前の手指消毒と検温、名簿の記入などコロナウイルス対策を徹底しての全四回公演。残念ながら会場内での飲食はできませんでしたが、落語家・六華亭遊花さんの楽しいお話で終始笑いの絶えない一時間となりました。



立憲民主党

NPOヒアリング

コロナ禍において社会不安がさらに山積みし、NPO団体の機能に期待値が高まる中、その活動を後押しする目的のもと立憲民主党が主催する公開ヒアリング(オンライン)に参加しました。各省庁の担当者から直接NPO関連予算について説明を聞き質疑を行える場とあり、全国から二百超の団体がエントリー。外務省を皮切りに十省庁の予算説明が行われ、昼休みも休眠預金の活用制度やNPO法改正についての案内に充てられた他、限られた時間の中でも各団体や議員から意見が飛び交うなど普段関わりのない部門からも多くの刺激を受けました。被災地関連予算は十年を越えて目減り傾向ですが、全国を対象とするNPO関連予算は二千億台に上がっており、活動にも多くの制度が課せられている中でも、積極的な活用をと呼びかけがありました。何を指し、何を担うか改めて問われる時代、新しい年度に向けて身を引き締め、法人の在り方を模索してまいります。

なみベジフプロジェクト

堆肥づくり体験

道の駅なみえで開催されているシリーズ企画、二月六日は実践編の堆肥づくり体験に参加しました。福大の金子教授によるレクチャーを受け、もみ殻・米ぬかをベースにした植物由来の素材での手作り作業に挑戦。失敗しにくい配合で合わせた材料を手分けして計り、混ぜ合わせ、足で踏み一連の作業を子どもから年配の農業従事者まで参加者全員で体験しました。その土地で採れた作物の残渣を堆肥として土に還す古来からの合理的な知恵と循環の利点。生産者のみなさんからは、広い圃場に用いるには現実問題もあるとしながらも、理想的な生産の在り方として好印象を持たれた様子でした。今年は野馬土の取り組みの中でも土づくりから挑戦してみたいと考えています。



心の復興事業 のまどリース教室

二月二十六日、カフェ野馬土にて『のまどリース教室』を開催しました。定番の丸いリースの他、前回好評だった四角形の壁掛けのどちらかを選んで作業スタート。今回は、初めてリース作りを体験する方が多く、戸惑いながらも色合いや配置に気をつけてバランスよく花をつけていきました。あまりの集中ぶりに水分補給するのも忘れ、あつというまに作業時間が終了。できあがった作品はひとつひとつ味わいがあり参加者さんに大満足していただきました。コロナウイルスの影響でランチ交流はありませんでしたが、一人ずつ前に出て自分の作った作品の発表会をしました。



原発二十km圏内ツアー継続中

新型コロナウイルス禍の中ですが、感染対策を徹底しながら細々と継続しています。二月にご案内したのは、ブラジルのテレビ局『レヴィゴローボ』や、卒業間近の早稲田大学、津田塾大学や東京大学など東京の学生達で、報道関係に就職が決まっている方々でした。福島第一原発事故から十年を迎える今年、復興はどう進んでいるのか？被害はどれだけ解消されたのか？現状を自分の目で確認し、真剣な質問を受けることが多かったと思います。相馬市、双葉町にかけて沿岸部や町並み、農民連が手がける様々な復興へのチャレンジを紹介しています。

